

～哲学の道の概要～



(舗装済区間の状況写真)



(未舗装区間の状況写真)



今後開催する「哲学の道デザイン検討会議」につきましても、今回と同様に随時、皆様へ会議の内容や状況をニュースレターでお届けいたします。



会議の資料、摘録は
京都市情報館に
掲載しています。

発行：哲学の道デザイン検討会議事務局
京都市：土木管理課（電話：075-222-3568）
京都市：左京土木みどり事務所（電話：075-791-9134）

道路や公園で損傷箇所を見つけたら「みっけ隊」アプリで投稿しよう！

「みっけ隊」はスマートフォンから道路等の損傷箇所を写真と地図情報で投稿できるアプリです。ぜひ、みっけ隊アプリをダウンロードして投稿して下さい！



みっけ隊 で検索！

みっけ隊ホームページ
<https://mikketai.city.kyoto.lg.jp>



皆さんからの投稿
お待ちしております！



令和7年10月

哲学の道デザイン検討会議ニュースレター

Vol. 3

京都市では、哲学の道の路面デザインについて、京都にふさわしい景観に調和し、かつ安全で通行しやすい道となるよう、専門家や地域の方々から意見や助言をいただくことを目的とする「哲学の道デザイン検討会議」を設置しております。

令和7年9月26日（金）に第3回の会議を開催し、事務局（京都市）から沿道利用や交通規制の状況等を踏まえたゾーニング案を説明した後、委員の皆様から路面の整備について、様々な御意見を頂戴しましたので御紹介させていただきます。

～第3回 哲学の道デザイン検討会議の様子～



会議で出た御意見は裏面を御覧ください→ P1

～各委員の皆様からいただいた主な御意見～

・舗装工事は基本的に色々な手法を用いたとしても、ヒートアイランド現象を助長することが明らかである。

・もし舗装をすとなれば、1本1本サクラの木の根の慎重な確認が前提ではないか。

・土の道で水はけが良い道も並行して研究していただきたい。

・生物やこれからの子供達にとって、何を優先することが大事なのか検討するよう進めてほしい。

・ゾーン2は、生活の要素が強いゾーン1と自然の要素が強いゾーン3の間の緩衝区間なので、このゾーン2というのが一つのポイントになってくる。

・車が通るゾーン1はできるだけ石や砂、粉塵が動かず、耐久性があり車に対しても強いものにする。ただし、ゾーン1も全体の基調の中で考えていく。

・住宅街は車も通る場所であり、環境も非常に大事。観光客も多く、景観も非常に大事なので、これらを網羅した形で、統一した形が必要ではないか。

・景観に合った、透水性の高い舗装が望ましい。

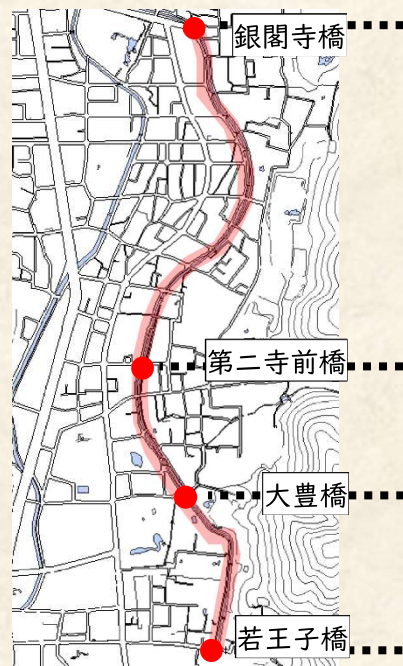
・温度が上昇するからと言って舗装をしなかったら、生活している方々は苦しいまと思う。

・沿道にお住まいの方々の立場に立って考えていただきたい。

・北側はより強く固め、南側はもう少し弱く固めていく方向性もあり、色調はYR系（地道色）の方がより温度上昇を抑えられる可能性が高い。保水性舗装にすることで、現状よりも環境に配慮したようなより良い舗装になっていく。

・ゾーン2では、竹を繊維にした天然の素材を混ぜるような新しい方法で、より強度を高めつつ、環境に配慮し生活環境にも優しい舗装を検討していく必要がある。

～哲学の道のゾーニング案～



店舗・住居や
月極駐車場が多いエリア

車両
通行可

風致
地区等

ゾーン1

生活環境、道路の安心安全
への配慮エリア

ゾーン2

生活環境への配慮エリア

ゾーン3

景観への配慮エリア

・地元の方にとって、舗装をすることが良い決断なのかはまだ判断できないが、現在の道の状態のまま現状維持は、望ましくない。

・ゾーン3は住居がまばらで特に景観への配慮が必要なため、ゾーン1、ゾーン2を優先する必要がある。

・ゾーン1、ゾーン2は、新素材で水はけの良い、さらに湿度も保つような舗装があれば、舗装をし、ゾーン3は現状のまま土で残す、というのが今の段階では現実的と思う。

～今後の整備の方向性～

全体の基調を整えつつ、各ゾーンごとに求められる配慮すべき事項や課題を解決できるような整備方法を検討していく。